

市長の 新任の ごあいさつ

9月30日(日)に行われた宜野湾市長選挙で初当選し、第18代宜野湾市長に就任した松川正則市長の市政がスタートしました。

プロフィール
まつがわまさのり
松川正則 (65歳)

市野嵩出身。1973年に宜野湾市役所に入庁。年金係、市議会事務局局長などを歴任。前宜野湾市副市長。趣味はスポーツ観戦、特に横浜DeNAベイスターズ、琉球ゴールデンキングスの試合観戦。普天間高校時代はバスケット部で全国大会、国体に出場。座右の銘は「僕の前に道は無い、僕の後に道はできる」。



「人がつながる、未来へつなげる」 ねたてのまち宜野湾」の達成へ

「あいさつ」

このたび9月30日に行われました宜野湾市長選挙において、多くの市民の皆さまからのご支援を賜り、第18代宜野湾市長に就任いたしました松川正則でございます。

私は、「市民と市政との絆」を大切に、「安心安全なまちづくり」を基本理念に市民との協働や開かれた市政運営、都市(まち)づくり、人づくり、未来づくりに、これまで副市長として邁進してまいりました。その経験、実績を活かし、市長として市政を担い、市民一人ひとりが幸せを感じ、宜野湾に住んでよかったと実感できる「宜野湾がいちばん」を継続して取り組んでいく決意でございます。

さて、本市の最大の課題であります普天

間飛行場問題については、日米両政府によるSACO合意から22年が経過しており、未だ全面返還されるどころか、県内では米軍機の炎上や墜落などが相次ぎ、市内保育園や小学校に航空機の部品が落下するという許されない事故等も起きております。このような状況の中、普天間飛行場の固定化は絶対に許されず、一日も早い閉鎖・返還を実現するため、基地があるが故の危険性の除去を引き続き日米両政府に強く訴えてまいります。

また、市政運営にあたっては、市民の暮らしや生活の安定・向上が何よりも大切な事であり、子育て支援、誰もが活躍できる社会の実現、教育環境の充実、健康・福祉施策の推進、経済振興・雇用創出、スポーツコンベンションの推進、防災体制の強化、

行財政改革および快適な生活環境の推進の全般におきまして、前市政で取り組んできた政策、事業をしっかりと継承し、活力と活気に満ちた豊かで住みよい宜野湾市の実現に向け、全身全霊を傾注してまいります。

今後の4年間につきましては、第四次宜野湾市総合計画基本構想で掲げた将来都市像「人がつながる 未来へつなげる ねたてのまち宜野湾」の達成に向け、市議会をはじめ、職員一丸となって全力で努める所存でありますので、市民の皆さまの、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任のあいさつといたします。

第18代宜野湾市長

松川正則

松川正則 市長 所信表明



「宜野湾がいちばん!」だと 実感できる まちづくりの推進へ

10月5日(金)、第417回宜野湾市議会定例会の開会にあたり、松川正則市長が述べた所信表明の全文を掲載いたします。

※所信表明とは、市政を運営していく上での基本的な考え方や信念などを述べたものです。

議長のお許しを得て、議案の上程説明に先立ち、市長就任のあいさつと所信を申し述べ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜わりたいと存じます。

私は、前任市長の辞職に伴う9月30日の市長選挙を経て、第18代宜野湾市長に就任いたしました松川正則でございます。

市長選挙では、佐喜真前宜野湾市長の市政を継承し、普天間飛行場の固定化阻止をはじめ、まちづくり、子育て支援、誰もが活躍できる社会の実現、教育環境の充実、健康・福祉施策の推進、経済振興・雇用創出、スポーツコンベンションの推進、防災体制の強化、行財政改革及び快適な生活環境の推進の全般におきまして「宜野湾がいちばん!」だと実感できるまちづくりの推進を訴えてまいりました。

その結果としまして、市民

有権者のご支持、ご理解のもと、市長という重責を担うこととなり、大きな喜びと同時に、身の引き締まる思いでございます。

今後の4年間につきましては、前市政で種々まいりました事業、芽を出している事業等しっかりと継承し、活力と活気に満ちた豊かで住みよい宜野湾市の実現に向け、精一杯取り組んでまいりたいと思っております。

それでは、私が市長選挙で公約として市民の皆さまにお示しした「宜野湾がいちばん!」と実感できるよう取り組む重点施策について、ご説明申し上げます。

1.「基地のない平和な まちづくり」

市民の生活環境に大きな負担を強いている普天間飛行場の固定化阻止につきましては、全面返還合意から22年目が経過した今なお、返還はおろか、市民が実感できる危険性の除去や、基地負担軽減も図られていないのが現状であります。

私と致しまして、最重要施策に位置付け、普天間飛行場の固定化を許さず、その危

険性を除去するため、基地の運用停止及び一日も早い閉鎖、返還並びに基地負担軽減の実現に向けた取り組みを強力に推進し、その実現のため政府、沖縄県、宜野湾市による普天間飛行場負担軽減推進会議の早期開催を強く働きかけるとともに、訪米要請行動等により、市民の目に見える形での負担軽減に取り組んでまいります。

また、普天間飛行場がまちなど真ん中に存するための市民の時間的、経済的損失や米軍機の日常的な飛行による騒音問題、電波障害に対する基地被害の補償措置や、飛行ルートの遵守などを政府に強く求めてまいります。

基地跡地利用につきましては、今年3月に地権者へ引き渡された、キャンブ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地に琉球大学医学部、同附属病院を移設し、「沖縄健康医療拠点を核とした都市機能と、水・みどり・文化の調和した住環境が広がるまち」の取り組みを推進してまいります。

インダストリアル・コリドール南側部分の早期返還を実現し、西普天間住宅地区跡地と連携

10月1日

就任から市長室まで



▲宜野湾市長当選証書付与式



▲初登庁する松川市長を職員が出迎え、市政スタートに向け、エールを送りました



▲伊波総務部長から事務引き継ぎを行う